

# 教育委員会定例会協議報告事項

令和7年2月18日

## 【報告事項】

- 令和7年度長岡市教育委員会当初予算の概要について (各課 別冊資料)
- 令和6年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について  
(学校教育課 資料P 1～7)
- 令和7年度長岡市学校教育の共通実践事項について (学校教育課 資料当日配布)
- 令和7年度授業イノベーションについて (学校教育課 資料当日配布)
- 令和7年度E d u - D i v e r 構想について (学校教育課 資料当日配布)
- 長岡市特別支援教育・保育事業補助金交付要綱の一部改正について  
(保育課 資料P 8～10)

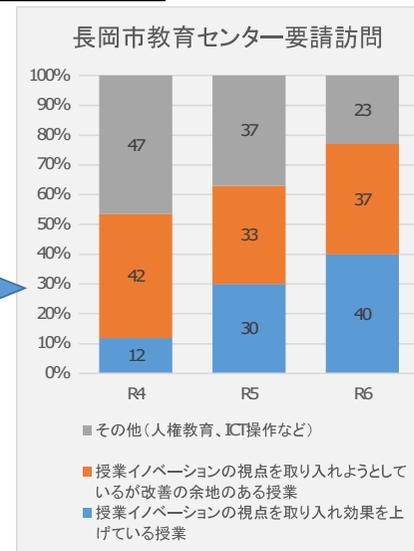
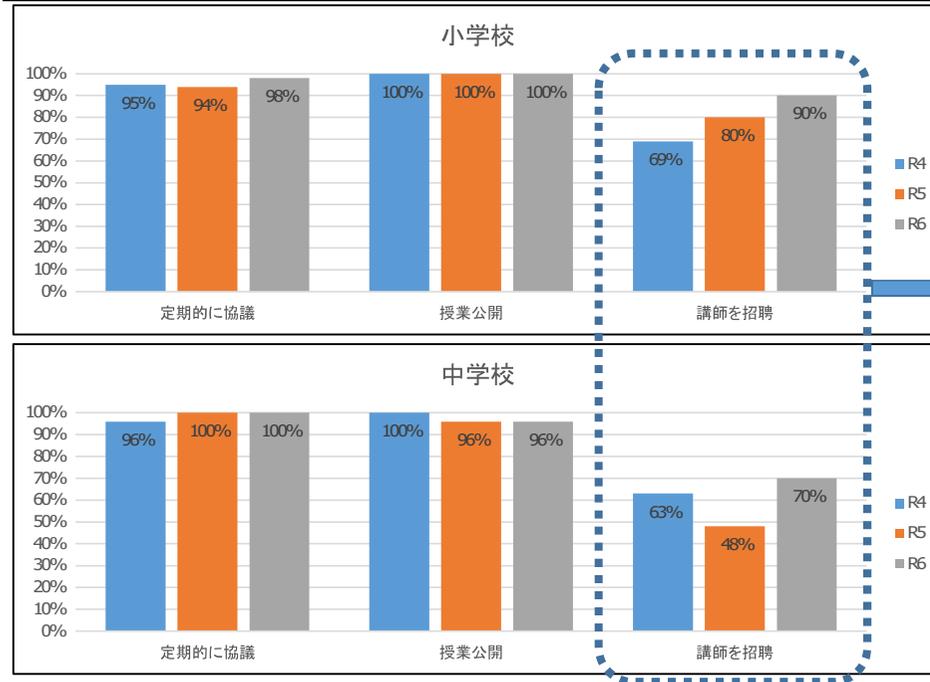
# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

## 人生や社会に生きる確かな学び Edu-Diver構想による授業イノベーションの推進

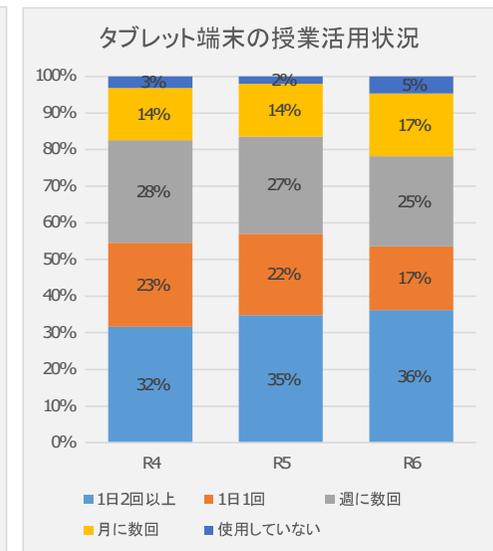
- ▶子ども主体の時間が多い授業
- ▶課題や方法を子どもが選択・決定する授業
- ▶教師が主体的に学ぶ校内研修の充実

### 【新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査(長岡市の結果)】

- 1 学力向上や授業改善に向けて、定期的に協議した。
- 2 授業公開(授業参観は除く)を行い、授業改善に取り組んだ。
- 3 講師を招聘し、学力向上や授業改善につながる研修の機会をもった。



○中学校からの授業イノベーションに関する要請研修が増加した。  
 ▲授業イノベーションの視点を取り入れて効果を実感できている学校をさらに増加させる。



○タブレット端末(Chromebook)を授業で活用する頻度の伸び率はやや鈍化している。現場が使用回数ではなく有効な活用を選択していると考えられる。  
 ▲特別支援学校での活用頻度が比較的低い傾向があり、どこに課題があるかを調査し、有効な使い方を周知する。

### 【実践状況】

- ①教育センターで行う研修講座や要請研修において、授業イノベーションの視点での取組を行った。
  - ②授業スタイルがイメージしやすいイラストや動画を取り入れた授業イノベーション図と説明動画を各校に配付し周知を図った。
  - ③長岡市三島郡学校教育研究協議会と連携をしながら、5教科において授業公開及び協議会を通して、授業イノベーションの具体的実践を示したり、実践力向上に向けた話し合いを行った。
- 以上3点の取組により、要請研修で訪問した学校を筆頭に多くの学校で授業イノベーションの視点を取り入れた授業が実践された。

### ●課題

- ①授業イノベーションの視点を取り入れた授業が行われ効果をあげている学校が増加しているが、全ての先生方の意識改革が必要がある。今までの推進活動を継続しつつ、令和7年度配付する授業イノベーションイメージ図を定期的にアップデートすることによりさらに意識を高める必要がある。
- ②特別支援学校でタブレット端末を有効に活用できるよう、学校の現状、課題を把握し、特別支援教育向けのICTにかかわる研修を周知する必要がある。

# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

## 長岡への愛着と誇りを育む学習 地域教材を活用したふるさと学習の推進 各学年の発達段階に応じた平和教育の充実

- ▶「わたしたちのまち長岡」「ながおか学」「こめぶら」、地域人材、施設等の積極的な活用
- ▶長岡戦災資料館の見学や、長岡空襲について学ぶ機会の設定
- ▶学んだことを発信する活動の実施

### 【実践状況】

#### ○郷土愛活動

【新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査(長岡市の結果)】

・ふるさとへの愛着や誇りを育む体験活動(ふるさと学習、地域でのボランティア活動等)を行った。

小学校			中学校		
R4	R5	R6	R4	R5	R6
98	98	100	96	96	93

#### ○「ながおか学」の活用

「ながおか学」は、児童生徒が長岡についての基本的な内容を知り、郷土への愛着や誇りを育むことに資するものとして教育委員会が作成し、毎年、小学校5年生に配付している。全市立学校で、地域での調べ学習や施設見学等のガイドブックとするなど、幅広い用途で活用している。以下のとおり、社会科、総合的な学習の時間を中心に活用が図られている。

##### 1 歴史の学習

- ・戊辰戦争や長岡空襲の経緯を通じて、地域が戦争や災害からどのように復興したかを学ぶ。
- ・河井継之助や「米百俵」など、長岡にゆかりのある人物や出来事を調査。郷土資料館を訪れる準備として、地域の歴史を深く掘り下げる。

##### 2 復興と平和学習

- ・戦争や災害(中越地震など)の後、長岡がどのように復興してきたかを学ぶ。
- ・長岡花火に込められた平和への願いや「フェニックス」の意味を調べ、防災学習に繋げる。

##### 3 農業・食育の学習

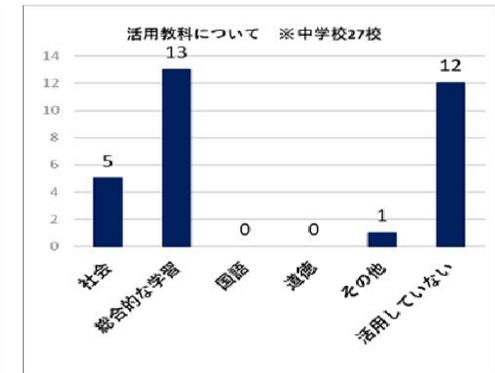
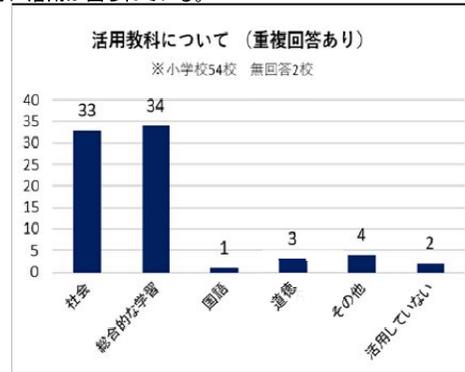
- ・長岡野菜や長岡の米づくりについて学び、地域農業や特産物への理解を深める。

##### 4 自然災害と防災

- ・中越地震を中心に、長岡が自然災害を克服してきた歴史を学ぶ。
- ・防災教育の一環として、長岡の災害からの復興事例を調査。

##### 5 総合的な学習の時間

- ・修学旅行の事前学習として、長岡の歴史、農業、工業について調べた。インターネットを活用するよりも、地域の資料が冊子になっており、学びやすくまとめられている。



#### ○平和教育の取組

平和に関する本の読み聞かせ、長岡空襲体験者の講話、慰霊の花火「白菊」についての学習、創作劇の発表など、各校の実情に合わせて教育計画に位置付け、平和教育を推進している。また、修学旅行で広島を訪問する中学校では、第二次世界大戦、真珠湾攻撃等の学習を通して、平和について考える機会を設定している。

長岡空襲等の戦災を学ぶため、戦災資料館などの関係施設の見学や資料による調査活動を行っている学校も多数ある。

R6 (R6.4.1～R7.1.7現在) 小学校1,332人、中学校672人 \* 引率教員を含む

#### ●課題

「ながおか学」の活用調査を踏まえて、具体的な活用事例について各校に発信し、効果的な活用を広げていく。「わたしたちのまち長岡」とともに、「ながおか学」を教科等の指導内容と関連付けてカリキュラムを編成・実施した取組なども取り上げたり、長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」を活用し、長岡について知る活動を基盤に未来の長岡についても考えるなど、ふるさと学習のさらなる充実を図る。平和教育も地域素材を活かした体験的な活動とともに、学んだことを発信する活動を取り入れ、平和への思いや大切さをより深く学ぶ実践の工夫に努める。



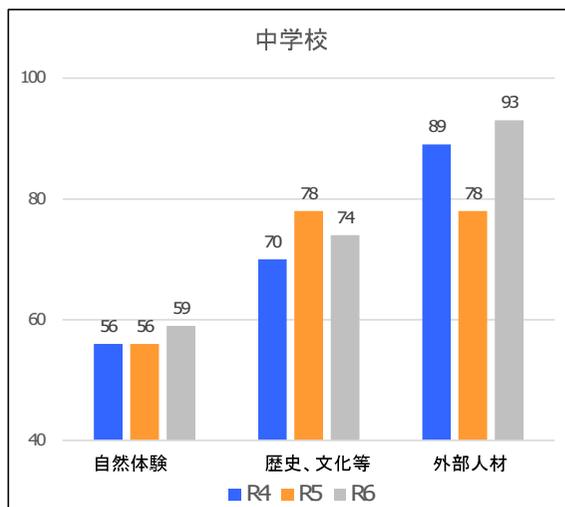
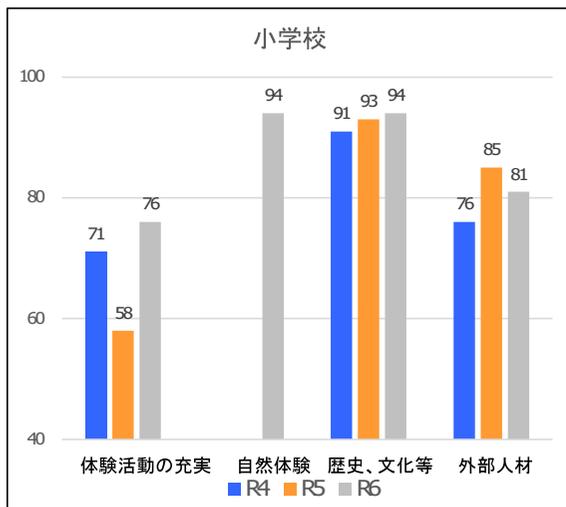
## 夢・志・自信を育む教育活動 実体験・感動体験の充実

- ▶「熱中！感動！夢づくり教育」の活用
- ▶「こめぶら」、地域人材を活用したキャリア教育の推進
- ▶「夢タクト」等による自己の成長、変容を実感できる場面の設定

### 【新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査(長岡市の結果)】

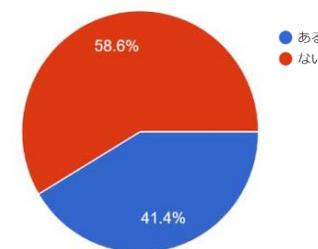
※数値は%

	小学校			中学校			
	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
1-1(小) 熱中！感動！夢づくり教育に学校単位で申し込み、体験活動の充実を図った。(ロボコン教室、ジョイフル里山)	71	58	76	94	56	59	実体験・感動体験の充実
1-2 自然に親しんだり自然を保護したりする活動を行った。	91	93	94	70	78	74	
2 地域の歴史や文化、産業等を学んだり、伝統芸能を伝承したりする活動を行った。	76	85	81	89	78	93	キャリア教育
3 外部人材を活用した授業(オンラインでの参加も含む)を行った。							



【児童生徒対象】	「こめぶら」活用状況		
	ア 「こめぶら」を見て、イベントや体験活動を申し込んだことがある。	イ 授業の時間に「こめぶら」を見たことがある。	ウ 家庭学習の時間に「こめぶら」を見たり、利用したりしたことがある。
小4から小6	4.8%	29.5%	18.1%
中1から中3	1.5%	11.0%	8.1%

授業で「こめぶら」学びのとびらにある動画コンテンツを活用したことがある。  
【教員対象調査】



### 【実践状況】

小学校では、新しい米百俵！長岡市「熱中！感動！夢づくり教育」の事業に、多くの学校や家庭から申込みがあり、実体験を伴う活動が行われている。小学校では、生活や総合的な学習の時間で、自然に親しんだり自然を保護したりする活動をする学校が多い。また、中学校では、学校の伝統活動として体験活動の取組が行われている。熱中・感動・夢づくり教育やコミュニティ・スクールをとおした地域の外部人材活用に加え、各校の実情に合わせて地域素材や学習環境を生かした実践も工夫して行われている。また、一人一台端末を活用した遠隔地(他県)との交流によるダイナミックな活動も行われた。

### ●課題

長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」では、長岡に関する内容を動画で見られる「学びのとびら」、地域で行われるイベントを紹介する「体験のとびら」、体験授業を検索できる「授業のとびら」、企業体験を紹介する「職業のとびら」の他、学校で取り組んだ地域素材を生かした学習を動画で紹介できる「M-ステージ」がある。子どもたちが、興味関心を高め、体験の申込みができる情報や職業を紹介している動画など、多くのコンテンツを掲載しているが、より授業等で活用しやすいコンテンツを学校や児童生徒の意見を基にして制作したり、保護者にさらに周知が進むように情報提供を継続したりしながら、「こめぶら」を活用した実体験・感動体験の充実やキャリア教育の推進を目指す。

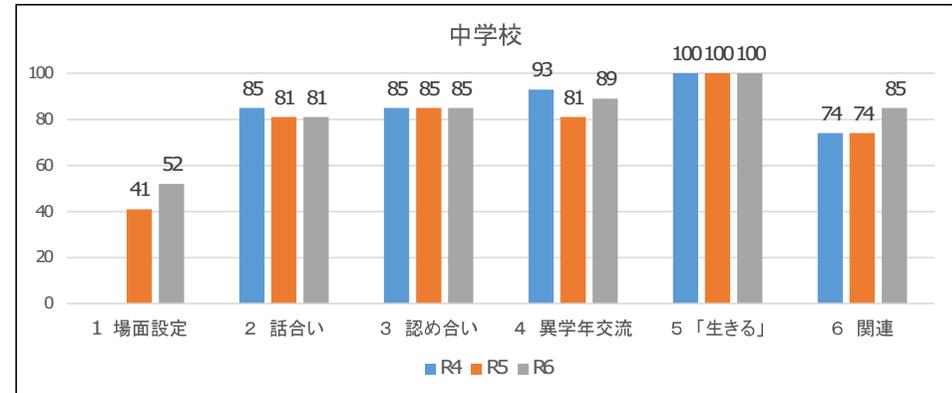
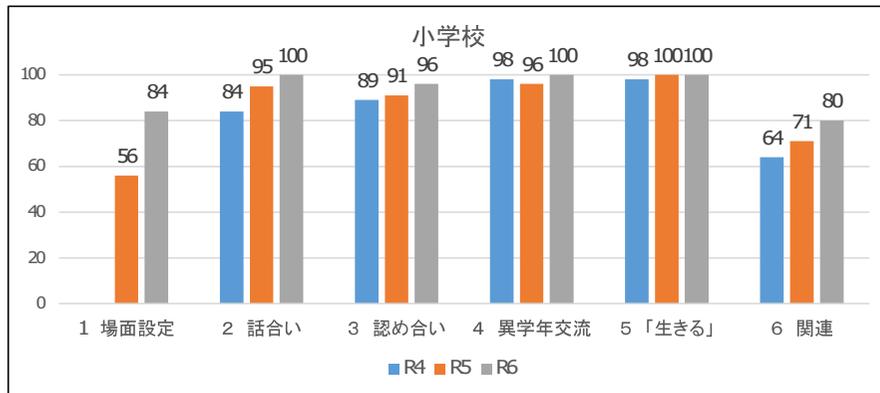
# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

## 互いに認め合う温かな人間関係づくり 学級経営の充実 同和教育を中核とした人権教育の充実

- ▶ 子どもの丁寧な行動観察による、言葉使いや気持ちの受けとめの充実
- ▶ 子どもが、自他ともに大切にできる学級経営
- ▶ 自他の行動を振り返り、いじめや差別をしない態度の育成

### 【新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査(長岡市の結果)】

	小学校			中学校		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6
1 総合的な学習の時間の学習過程において、児童生徒の失敗や対立、うまくいかなかった経験を次につなげる場面を設定した。	56	84	84	41	52	52
2 意思決定や合意形成を目指した話し合いを、すべての学級で実施した。	84	95	100	85	81	81
3 役に立つ喜びを実感し、互いのよさを認め合う活動を、すべての学級で実施した。	89	91	96	85	85	85
4 生徒主体の異年齢集団による交流活動を実施した。	98	96	100	93	81	89
5 道徳の年間指導計画に「生きる」シリーズ等の副読本を位置付けた。	98	100	100	100	100	100
6 道徳、特活、教科等の年間指導計画に人権教育、同和教育との関連を示した。	64	71	80	74	74	85



### 【実践状況】

意思決定を目指した話し合いや互いの良さを認め合う活動は、多くの学校で行われており、自他を大切にすることを育むための様々な実践が行われている。全学校で人権教育強調週間を設定し、同和教育副読本「生きる」シリーズを活用した授業実践が全小中学校で100%実施されるなど、全校体制で取り組んでいる。人権教育、同和教育に関する職員研修として、小学校49校(88%)、中学校23校(85%)が授業実践に向けた指導案づくりの研修を実施している。人権教育、同和教育に関する児童生徒への指導内容として、感染症患者等(ハンセン病、HIV、新型コロナウイルス感染症等)は小学校22校(40%)、中学校14校(52%)、インターネットによる人権侵害は小学校49校(89%)、中学校20校(74%)が取り上げ、現状を踏まえた課題を適切に指導している。

### ●課題

子ども自身がうまくいかなかった経験を通じて、自分なりの課題を見つけ、様々な人と交流しながら意見交換を繰り返し、納得できる解決策を見つけていけるような授業イノベーションを推進していく必要がある。様々な活動で場面を設定するだけでなく、子どもの行動を丁寧に観察し、その気持ちを受け止め、次のステップに進んでいけるよう勇気付けをしていく。人権教育、同和教育については、引き続き同和教育を中核とし、全ての学校で全校体制の取組の充実を図り、好ましい人間関係づくりを身に付けさせる指導の工夫を図る。

# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

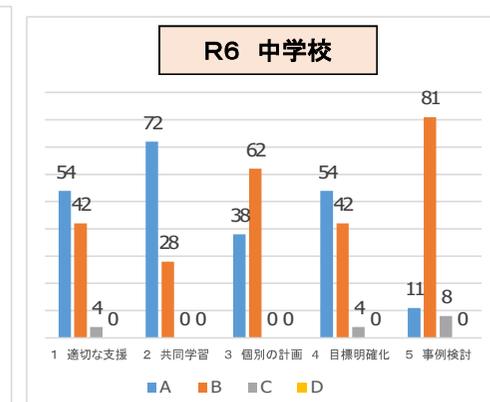
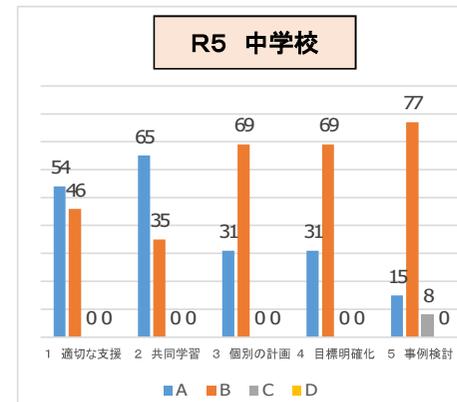
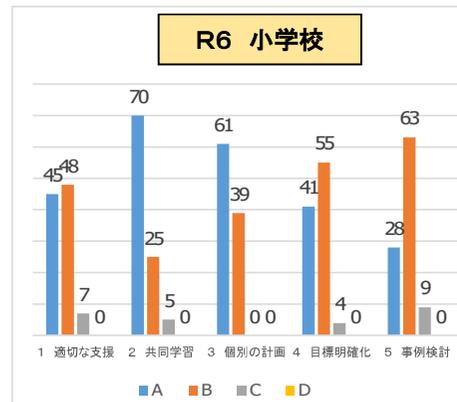
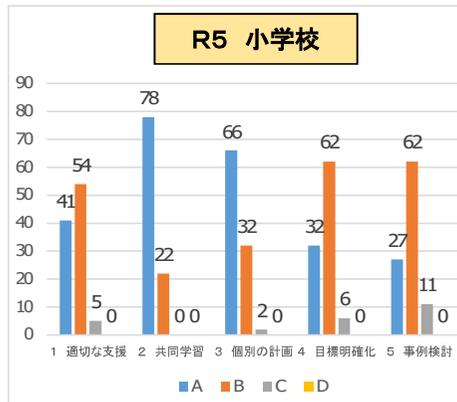
## 一人ひとりを大切にした支援 教育的ニーズに応じた支援の充実 子ども一人ひとりを尊重した関係づくり

- ▶一人ひとりの目標やねらいを明確にした支援
- ▶日常的な職員間の情報共有
- ▶子どもとの関わりを重視した、全校体制による支援
- ▶子どもと教師との信頼関係の構築
- ▶多面的、総合的な子ども理解

### R6 インクルーシブ教育システム構築に関する課題発見アンケート(長岡市立学校81校分) ※数値は%

- 1 通常の学級における教育上特別な支援を要する児童生徒について、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し適切な支援に努めている。
- 2 特別支援学級在籍の児童生徒と通常の学級の交流及び共同学習の目的を理解し、スムーズな実施につながるよう環境を整え、積極的に推進している。
- 3 長期の視点に立った支援を行っていくために、すこやかファイルを活用し、家庭や医療・福祉など関係機関と連携して個別の教育支援計画を作成する(特別支援学級在籍)。
- 4 一人ひとりの教育的ニーズを踏まえ、目標を明確にし、何を、どのように学んでいくのか見通しをもち、単元づくりや授業づくりの工夫をしている。
- 5 教室や授業における特別な支援の在り方について、具体的な研修が深まるよう、事例検討や授業研修に位置付けるなど工夫して実施している。

A:よくできている  
B:概ねできている  
C:一部課題がある  
D:課題が多い



### 【実践状況】

- 1 各校では、授業のねらいを明確にした個別の指導計画の作成を実施し、ポジティブな感情を引き出す言葉掛けと共に、焦点化して子どもの様子を丁寧に観察する、タイミングよく待つなどの様子が見られる。
- 2 共生社会を目指し、各校において自然な形で交流及び共同学習が実施されているが、学習のねらいを明確にし、障害のある人への理解を深める学習活動を進めている。「交流」のねらいとなる様々な人との自然な関わり、「共同学習」のねらいとなる教科の目標が定まっていない状況もある。
- 3 医療・福祉等との連携が充実してきていることから、役割分担を明確にし担当者の強みを生かした連携・対応ができつつある。
- 4 合理的配慮の提供については、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を明確にした上での環境整備が進められてきている。
- 5 面談等において子どもの実態を肯定的に捉え、丁寧に説明することで保護者の安心感が得られるようになっている。

### ●課題

- ・実態把握では、複数の担当者で支援方法を長期的な視点で検討し、担当者と情報を共有していく中で専門性を高めていく。
- ・校内委員会では、「行動観察からその子に合った具体的な支援は何か」ポイントを絞って検討し、個別の指導計画等に簡潔に明記し実践を進めていく。
- ・担当者は、キーパーソンを中心に肯定的なかかわりから子ども理解を深め、子どもが自信を付けていけるよう支援の質を高めていく。

# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

## 安心・安全で心やすらぐ学校づくり いじめの早期発見と適切な初期対応 個の状況に応じた不登校に対する支援の充実

- ▶いじめの未然防止と早期発見の取組
- ▶長岡市初期対応フローを指針とした、組織的かつ丁寧ないじめの初期対応
- ▶本人や保護者の気持ちに寄り添った支援
- ▶初期段階からの適切な相談・支援の取組の推進と関係機関との連携

### 【いじめの早期発見と適切な初期対応】

#### 【R6 新潟県 市町村立学校の生徒指導体制等の自己点検(長岡市の結果)】

※数値は%

	小学校			中学校		
	複数チェックしている	アンケート内容による	複数チェックしていない	複数チェックしている	アンケート内容による	複数チェックしていない
① いじめや児童生徒の悩みを把握するためのアンケート調査を実施後、複数の教職員でチェックしていますか。	91	7	2	85	15	0
② 児童生徒の悩みや不安を把握するための面談を、実施していますか。	面談した 100		面談していない 0		面談した 100	



### 【実践状況】

いじめ認知件数は、昨年度を大きく上回る見込みとなっている。アンケート調査や面談等を活用して、児童生徒の悩みや不安の把握に努め、いじめを見逃さない取組を地道に行っているものと受けて止めている。また、今年度も開催した「いじめ対応研修会」にすべての学校の担当者が参加し、教職員のスキルアップを図った。今年度から長岡市いじめ防止基本方針に組み込んだ「初期対応フロー」に基づき、学校全体で児童生徒の気持ちに寄り添った丁寧な対応がなされたことによりほとんどのケースが解消に向っていることから、各校や教職員の対応力の向上が図れていることを実感している。

### ●課題

人権意識の不十分さを起因とする事案が多く発生している。他者を思いやり、命の大切さを児童生徒に伝える未然防止の取組を推進するとともに、SOSに気付く環境整備をさらに進め、早期発見に努めることが大切である。また、事案発生時に管理職への報告のタイミングが遅れたり、関係児童生徒への聴き取りが不十分のまま解決を急いだりするなど、丁寧さを欠いた初期対応により、関係児童生徒や保護者の不安や不信につながり、事態が深刻化、長期化するケースがあった。迅速で確実な情報共有を図り、組織的に対応すること、対応の方針に沿って学校として自信をもって対応することも重要である。

### 【個の状況に応じた不登校に対する支援の充実】

#### 【R5「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果】

※数値は人数

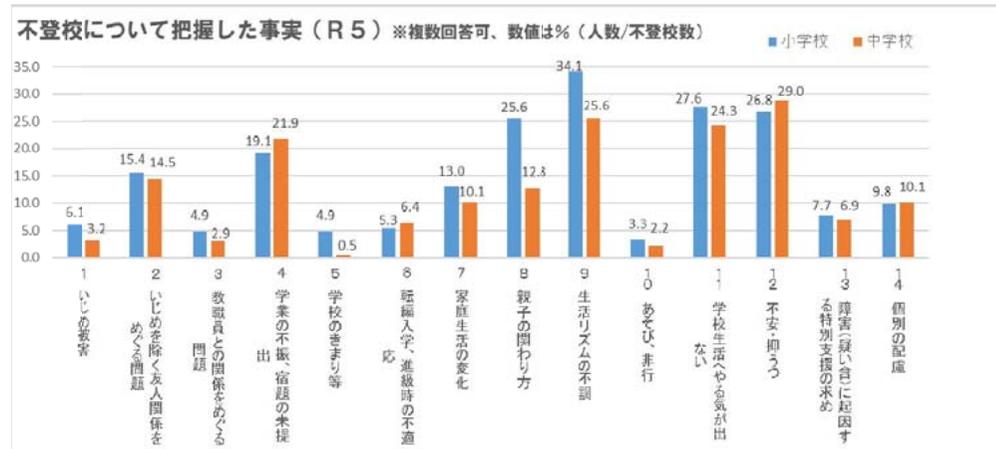
### 【実践状況】

令和5年度の不登校児童数は、令和4年度を大きく上回る結果となった。「不登校について把握した事実」の中で学校生活に関するものとして、「学業の不振、宿題の未提出等」が最も多く、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が続いた。

「学校生活へのやる気が出ない」等の結果も受け、さらに児童生徒が学校に行きたくなる、足が向くようになるために、「魅力ある学校づくり」の推進が一層求められる結果となった。

### ●課題

初期の段階から個々の状態に応じて適切に対応するため、学校と家庭、関係機関の連携の強化が一層重要である。不登校初期段階報告(速報)や「不登校及び配慮を必要とする児童生徒への早期支援(初期対応フロー)」を活用し、迅速で丁寧な対応に一層努めていく。あわせて、学校教育をより魅力的なものにすることが急務である。「授業イノベーション」を基にした授業づくり、心の通う人間関係づくり、特別支援教育の推進とともに新たな不登校を生まない取組を進めていく。



# 令和6年度 長岡市学校教育の共通実践事項 実践状況

## 保幼小中及びコミュニティ・スクールにおける連携・協働 「育てたい子どもの姿」の共有と主体的な連携・協働活動

- ▶子どもをまんなかにした「育てたい子どもの姿」の共有
- ▶「自分たちの地域の子どもは自分たちで育てる」という意識の醸成

### 【長岡市 保幼小中連携事業に関するアンケート結果】

※数値は%

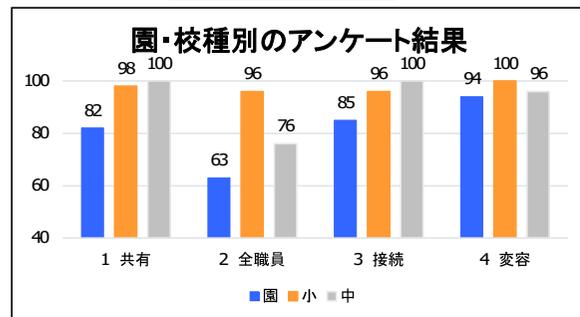
	園	小	中
1 連携グループで目的や子どもの情報を共有したり、活動後に振り返りをしたりする等、「育てたい子どもの姿」を目指してチームで連携や協働ができています。	82	98	100
2 自園または自校のすべての職員に、保幼小中連携の目的や連携グループの「育てたい子どもの姿」が浸透している。	63	96	76
3 接続期において、子どもたちの育ちや学びについて情報共有をしたり、実態に合わせてカリキュラムを工夫したりすることでスムーズな接続を実現している。	85	96	100
4 保幼小中連携の取組やそれに係る指導によって、子どもたちの姿や考え方に姿が見られたり、子どもたちが安心して学校生活をスタートさせたりする様子が見られる。	94	100	96

### 【新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査(長岡市の結果)】

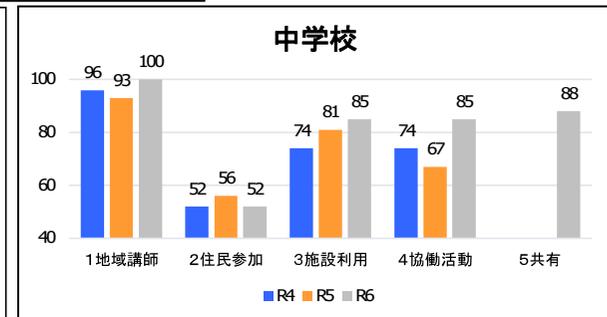
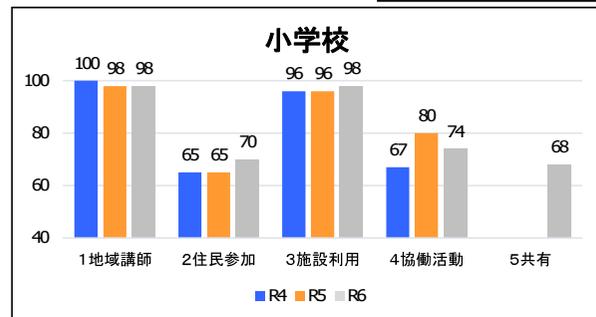
※数値は%

	小学校			中学校		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6
1 授業等の教育活動に地域の人を講師として招聘した。	100	98	98	96	93	100
2 学校行事に地域住民が参加した。(単なる参観、見学等は除く)	65	65	70	52	56	52
3 地域の公共施設を学校の教育活動に利用した。	96	96	98	74	81	85
4 地域の課題や実状に即した教育活動に地域の人と協働で取り組んだ。	67	80	74	74	67	85
5 家庭や地域に向けて、お便りやホームページ等で「育てたい子どもの姿」を共有している。			68			88

### 保幼小中連携



### 長岡版コミュニティ・スクール



### 【実践状況】

#### 【保幼小中連携について】

昨年度の連携グループでの取組を土台にしなが、子ども同士の交流活動や行事への参加、職員の合同研修会の開催等、様々な取組が実施された。今年度、新規の活動を入れたり、学校と園だけでなく園同士の交流をしたり等、連携グループの実態に合わせた連携の姿が見られている。

#### 【長岡版コミュニティ・スクールについて】

令和5年度より、全市立学校(単独校46校、中学校区15校区)で長岡版コミュニティ・スクールが組織化された。子どもをまんなかに、みんなで子どもたちが成長していく姿を共有し、地域・学校の実情に応じた良さと強みを生かしながら、活動を進めてきている。児童・生徒が、学校から地域に飛び出して活動を行う機会が徐々に増えつつある。

### ●課題

#### 【保幼小中連携について】

教育センターで開催した講座は、参加者の9割が園の職員だった。アンケートは肯定的評価の割合が高く、順調に連携が進んでいることが伺えるが、「すべての職員に浸透しているか」という項目が他と比べると低い。連携グループごとや園学校間、または学校内で意識や取組に差があるので、今後も連携の意義やねらいについて理解を深めていくことが必要。また、子どもの実際の姿について語り合うことで、子どもをまんなかにした連携にしていく。

#### 【長岡版コミュニティ・スクールについて】

CSディレクター情報交換会で、互いの取組を共有することができている。参考にしながらも、これまで築き上げ根付いてきた取組や組織、伝統・文化を生かして、各地域での「育てたい子どもの姿」の具現を目指していく。

## 長岡市特別支援教育・保育事業費補助金交付要綱の一部改正について

本要綱の一部改正は、市長の補助執行として行い、長岡市として公表するため報告事項とする。

### 1 改正理由

本要綱の趣旨は、当該事業を実施した特定施設に補助金を交付するものであり、その補助基準額については、元来、「新潟県特別保育事業補助金交付要綱」に準拠した額としていることから、県の要綱の改正の都度、これに合わせて改正を行ってきた。そこで、定例的かつ頻繁に改正が行われる中でも、より速やかに特定施設へ周知・支援を行うため、第6条の「別表に定める額」を「別に市長が定める補助基準額」に改正するもの

### 2 改正内容

長岡市特別支援教育・保育事業費補助金交付要綱第6条の「別表に定める額」を「別に市長が定める補助基準額」に改正する。

なお、このたび、「新潟県特別保育事補助金交付要綱」に定める「障害児等保育事業」の基準額が改正されたことに伴う「別に市長が定める補助基準額」は次のとおりとなる。

<補助基準額>

有資格：75,000円/月 ⇒ 83,500円/月

無資格：37,500円/月 ⇒ 41,750円/月

### 3 施行日

公表の日



			定める基本研修及び5(3)イ(イ)に定める地域保育コースのうち、「地域型保育」を修了した者をいう。)を配置している場合
		第4条第2号の事業	対象児童1人 あたり年額1 0,000円
		第4条第3号の事業	1施設あたり 年額30,000円

附 則

この要綱は、公表の日から施行する。